

そこが知りたい!

くらしの金融知識

60歳からはじめる インターネットバンキング

インターネットの登場は私たちの生活を大きく変化させました。さらに、ここ数年急速に普及しているスマートフォンは、その機能と携帯電話の役割を併せ持つため、非常に手軽であり、高齢者にもネット社会をより身近に感じさせているのではないのでしょうか。こうした背景から、銀行に行かず銀行を活用するネットバンキングの便利さとお得なサービス、そして活用する上での注意点や相談サービスなどを実例を交えてご紹介します。

大手都銀だけで3000万超の
インターネット取引口座

ここ数年、自宅のパソコンからインターネットに接続して銀行取引をする人が増えています。これをインターネットバンキングと呼び、利用するには申し込みが必要です。インターネット取引の契約口座数は、大手都市銀行の3行を合計すると、すでに3000万を超えているようです(各銀行のデイクロージャー誌などより)。他の銀行、信用金庫、ゆうちょ銀行などを含めると、たくさんの方がインターネット取引口座を持っていることが分

りますね。

どのような人が、どれくらいインターネットバンキングを利用しているのでしょうか?全国3400名の一般生活者へのアンケートである、「よりよい銀行づくりのためのアンケート」(一般社団法人全国銀行協会が2012年8月に実施)の結果から、いくつかのデータをご紹介します。

インターネット調査では、
インターネットバンキングの
利用率は6割以上

銀行取引を行う場所や方法は、銀行の窓口をはじめ、ATM

や、今回取り上げるパソコンを使ったインターネットバンキングなど、いくつかあります。

アンケートの結果によれば、最も多いのは「銀行内のATM」で96.8%が利用しています。次が「銀行の窓口」で92.7%、コンビニエンスストアやスーパーに設置されたATMが69.3%、インターネットバンキングは65.2%となっています(図表1参照)。またインターネットバンキングの利用頻度については、月に1回くらいが17.7%で最も多く、1週間に1回以上が13%と続き、2~3週間に1回くらいが12.7%などとなっています。

■ 図表1：利用している銀行チャネル

銀行の窓口	92.7%	スマートフォン向けバンキング	6.5%
銀行内のATM	96.8%	テレフォンバンキング	5.1%
コンビニエンスストアやスーパーなどにあるATM	69.3%	外交員・渉外担当者	10.6%
インターネットバンキング	65.2%	その他	2.7%
モバイルバンキング(スマートフォンを除く)	9.6%		

注：利用は、週に1回以上、2~3週間に1回くらい、月に1回くらい、2~3か月に1回くらい、半年に1回くらい、1年に1回以下の合計。

「よりよい銀行づくりのためのアンケート」(一般社団法人全国銀行協会)より

【監修・執筆】

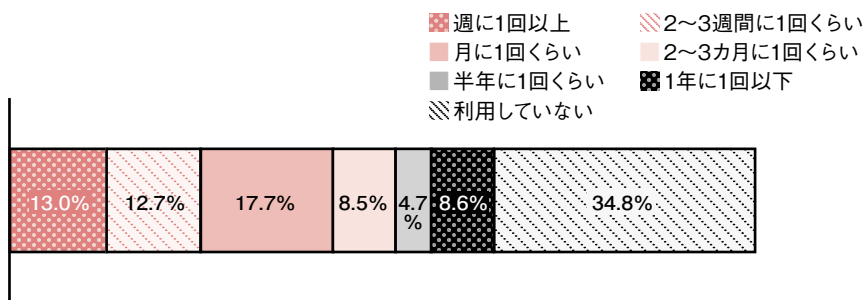
AFP/2級FP技能士

坂本 綾子 (さかもと あやこ)

大学在学中より雑誌の編集に携わり、卒業後に取材記者として独立。1988年より女性誌、マネー誌などで金融に関する記事を執筆。家計管理、保険、資産運用に関する記事をはじめ、銀行の商品・サービスについても雑誌やWEB媒体で多数執筆。執筆に加え生活者対象のセミナー、家計相談も行っている。「お金の教科書」全7巻(小学校高学年から中学生向け金融・経済教育本)の著および監修。

2012年より、市民団体「フォスター・フォーラム(良質な金融商品を育てる会)」にて、消費者教育を担当して活動中。

■ 図表2：インターネットバンキングの利用頻度



「よりよい銀行づくりのためのアンケート」（一般社団法人全国銀行協会）より抜粋して作成。

ます（図表2参照）。
 いかがでしょうか？この調査はインターネットを使って行われたため、日常的にパソコンやインターネットを使いこなしている人たちのケースといえそうですが、ずいぶん利用が多いと感じる方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

60代以上の利用も少なくない

インターネットバンキングの利用について、年齢や性別など、もっと細かく見てみると、次のようなことが分かります。

- ◆ 男性は女性よりも利用頻度が高い
- ◆ 男性では40代から50代の利用が多い
- ◆ 女性では30代から50代の利用が多い
- ◆ 男性は、60代、70代でも、2・3週間～2・3カ月に1回の利用※が4割程度となっている。
- ◆ 女性は、50代でも、2・3週間～2・3カ月に1回の利用※が4割弱となっている。

※利用頻度が2～3週間に1回くらい、1カ月に1回くらい、2～3カ月に1回くらいの回答比率の合計

このように、インターネットバンキングを利用しているのは若い世代だけではなく、60歳以上であっても、男性は6～7割程度、女性は4～5割程度が利用していることが分かります（図表3参照）。
 インターネットに慣れている人

■ 図表3：男女別、年齢別インターネットバンキングの利用頻度

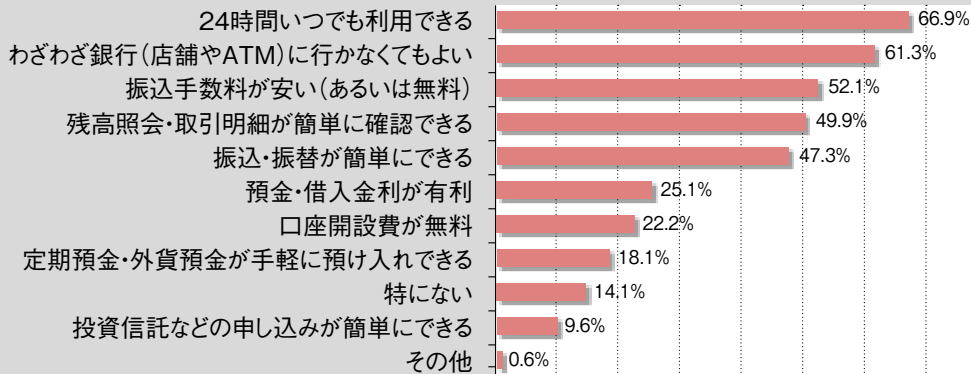
性×年代\ 利用頻度		週に1回以上	2・3カ月～2・3週間に1回※	半年に1回以下	利用していない
全体		13%	38.9%	13.3%	34.8%
男性	計	17%	45.2%	12.6%	25.2%
	18～29歳	13.9%	39.6%	9.4%	37.2%
	30～39歳	17.0%	47.8%	12.5%	22.8%
	40～49歳	19.4%	50.0%	14.2%	16.3%
	50～59歳	16.5%	52.7%	15.4%	15.4%
	60～69歳	17.4%	44.0%	11.9%	26.6%
	70～79歳	18.4%	34.2%	12.2%	35.2%
女性	計	9.0%	32.7%	13.9%	44.4%
	18～29歳	6.0%	19.8%	9.9%	64.3%
	30～39歳	7.1%	39.1%	14.9%	38.8%
	40～49歳	11.6%	39.3%	17.8%	31.3%
	50～59歳	12.3%	36.8%	15.8%	35.2%
	60～69歳	9.5%	35.3%	11.8%	43.5%
	70～79歳	7.6%	24.7%	13.9%	53.8%

※利用頻度が2～3週間に1回くらい、1カ月に1回くらい、2～3カ月に1回くらいの回答比率の合計
 「よりよい銀行づくりのためのアンケート」（一般社団法人全国銀行協会）より

たちには、このような形で利用されているインターネットバンキングですが、どのようなメリットがあるのでしょうか？同じ調査の中に「魅力を感じるインターネットバンキングのメリット」という質問があるので、回答を見てみると…。

- ◆ 24時間いつでも利用できる
- ◆ わざわざ銀行（店舗やATM）

- ◆ 振込手数料が安い（あるいは無料）
 - ◆ 残高照会・取引明細が簡単に確認できる
 - ◆ 振込・振替が簡単にできる
- が上位に挙がっています（図表4参照）。
 これらはまさにインターネットバンキングが持つ特徴でもありません。



■ 図表4：
魅力を感じるインターネット
バンキングのメリットは？

【よりよい銀行づくりのためのアンケート】(一般社団法人全国銀行協会)より

す。インターネットバンキングでできることをまとめると次のようになります。

インターネットバンキングでできることは？

インターネットバンキングとは、主に自宅のパソコンをインターネットにつなぎ、銀行が提供するサービスサイトにログインして行う銀行取引のことです。店舗を過ぎず直接取引することから「○○ダイレクト」というサービス名を使うところが多くなっています。こうしたサービスに申し込むと、パソコンのインターネットバンキングに加えて、携帯電話でのモバイルバンキングや、最近ではスマートフォンを活用したインターネットバンキングができるようになっていきます。

インターネットバンキングでできる取引は、銀行により、またどの端末を使うか(パソコンか携帯電話かスマートフォンか)により異なりますが、代表的なものは次の通りです。

- ◆ 残高照会・入出金明細の照会
- ◆ 振込・振替
- ◆ 定期預金の作成・解約

- ◆ 外貨預金の預入・解約
- ◆ 投資信託の購入・解約

住所変更の届け出や、公共料金振替の申し込みができる銀行もあります。

また、鉄道やバスの乗車、ちょっとした買い物に電子マネーを使う人が増えていますが、銀行によってはインターネットバンキングでモバイル型電子マネーのチャージができるところもあります。

インターネットバンキングには3つのタイプ

インターネットバンキングは次の3つのタイプに分けることができます。

**銀行などが提供する
取引サービスとしての
インターネットバンキング**

都市銀行、地方銀行、信用金庫などでは、従来からの窓口やATMと並行して、インターネットバンキングのサービスを提供しています。すでに口座を持つ人も、利用するには申し込みが必要です。窓口や電話、インターネットで申し

込みます。最近は口座開設の際に合わせて申し込むよう勧められることが多いようです。

**インターネット支店での
インターネットバンキング**

インターネット上のお店でネットショッピングを行う人が急増していますが、銀行の中にはインターネット上にインターネット支店を出しているところがあります。実在の店舗はなく、原則インターネットでの取引が中心。バーチャルな店舗ゆえに維持費や人件費などが割安に済むことから、実在の店舗よりも金利を高め設定した定期預金などを提供しています。インターネット支店の口座開設は、インターネットで電話で申し込みます。

**インターネット専門銀行の
インターネットバンキング**

原則として実在の店舗を持たず、インターネットを利用して取引を行う銀行です。ここ10年ほどで新規開業が相次ぎました。それぞれに特徴のある商品・サービスを競い合っています。口座開設の

申し込みもインターネットで行います。

○どんなふうに使われているの？

幅広い世代の人が利用しているインターネットバンキングですが、実際に利用している人の感想を紹介しましょう。60代の利用者に、始めたきっかけや実際の利用法をうかがうと…。

東京都在住のOさん（男性、68歳）は、65歳で退職し、その後は地域活動にかかわるなど活発に過ごしています。

「60歳を過ぎていましたが、インターネットバンキングはまだ現役時代に始めました。きっかけはキャンペーンがあつて銀行員から勧められたことでした。銀行に行かなくてもよく、時間的にいつでも使えることに魅力を感じました。以前からインターネットショッピングの経験があつたので、インターネットを利用することへの抵抗感はありませんでした。それ以来かなり使っており、重宝しています」

退職後、日常的なお金の管理を自分でできるようになってからは、より利便さを実感しているという

ます。

「入・出金のデータをダウンロードして自分なりの出納帳を作成しています。毎月の定期的な支払いはもちろん、キャッシュカードでの出金やクレジットカード支払いの金額を確認します。出金や、引き落としが多いと今月は外出が多かったことが分かります」（Oさん）。

そして、Oさんがもっとも気をつけているのはパスワードの管理です。

「安全のために定期的にパスワードを変更しています」

目的別にインターネットバンキング口座を使い分け

やはり現役時代からインターネットバンキングを利用している東京都のMさん（男性、65歳）は…。「勤務していた会社で、給料の振込先を第3口座まで指定できるようになったこと、立替交通費や出張費用などを電子申告し、受け取りが口座振込になったことなどがきっかけです」

Mさんは現在、都市銀行1行、インターネット専業銀行2行にインターネット取引口座を持っている

そうです。

「家計管理、資産運用など口座を目的別に分けて使っています。都市銀行、インターネット専業銀行のそれぞれの特長や便利な機能を『いいところ取り』して活用しています。重宝しているのは振込手数料の無料サービスとポイントサービス。また深夜や土日振込や振替の手続きができるメリットは大きいです。外貨預金や銀行取り扱いの投資信託も利用しています。証券会社と連携した口座も便利ですね」（Mさん）。

振込手数料の割引幅や、無料になる1カ月当たりの所定回数などのサービスは銀行によって違うので、インターネットバンキングを申し込む際に、その銀行がどんなサービスを行っているか確認する必要があります。

銀行では、預金のみならず投資信託や保険も取り扱うようになりました。株式の売買注文はできませんが、金融商品仲介により銀行のインターネット取引口座と証券会社のインターネットトレード口座を連携させるサービスも提供されています。Mさんが利用しているのは、この金融商品仲介による

取引です。

○まずは生活口座で使ってみる

インターネットバンキングを使ってみようという場合、最初は日常的な取引を行っている口座での利用を検討してみることが考えられます。

インターネットバンキングには3つのタイプがあることを先に述べました。その中の「銀行などが提供する取引サービスとしてのインターネットバンキング」にあたります。窓口やATMはこれまでと変わりなく利用でき、さらにインターネットバンキングも併用できます。検討の結果、インターネットバンキングの申し込みをした場合には、せつかくですから、慣れるためにも、パスワードを忘れないためにも、時どきは使うようにしましょう。入出金の明細照会を利用して月末に1カ月分のお金の出入りを確認してみる、振込の必要が生じたときにチャレンジしてみるのもいいですね。慣れてきたら、ほかの銀行のインターネットバンキングサービスなども見比べて、インターネット支店やインターネット専業

銀行の利用などを考えてみるのもいいでしょう。

困ったときの相談先は？

インターネットバンキングを始めてみたら、「分からない」「困った」ということが起きるかもしれません。何ができませんか、何が分からなくて困っているのか、原因に応じて相談先は異なります。

● パソコンの操作が分からないのであれば、パソコンのメーカー。パソコンの説明書で連絡先を探しましょう。

● インターネットの接続がうまくいかないのならインターネットのプロバイダ。契約書で問合せ先を確認しましょう。

● インターネットバンキングの画面にログインできない、パスワードを忘れた、ログイン後の操作方法などについては、インターネットバンキングを申し込んでいる銀行。インターネットバンキング専用フリーダイヤルが銀行のサイトや、操作方法の冊子などに記載されています。

● 残高が合わない、偽のサイトに誘導されたのではないかなど金融

犯罪に巻き込まれた不安があるなら、取引銀行と警察に相談をしましょう。

慣れないと、ちよつとした操作方法で戸惑つたりするものですが、家族や知人でインターネットを利用している人が身近にいれば聞いてみてはどうでしょうか。男女ともに30代〜50代のインターネットバンキング利用率は高く、仕事でパソコンやインターネットを利用する人も多い世代です。

これからのインターネットバンキングはどうなる？

インターネットバンキングで、最近のもつとも大きな変化は、スマートフォンでのサービス提供です。スマートフォンでの急速な普及に足並みを合わせるように、ほとんどの銀行がスマートフォン専用画面で対応するようになりました。利用できる取引サービスも順次、拡充されています。

スマートフォンでのインターネットバンキングは、従来の携帯電話のモバイル（インターネット）バンキングとは異なり、携帯電話兼用であつてもインターネットへの接続

の仕組みはパソコンと同様ですから、安全対策として必ずセキュリティソフトを導入しておくことが大事です。パソコンの場合はもう常識ですが、スマートフォンの安全対策はまだという人も多いのではないのでしょうか。利用の前に必ず導入しましょう。インターネットバンキングを行う端末は、現在はまだパソコンが主流ですが、今後はスマートフォンでの利用が増えていきそうです。

今後が増えることが予想されるインターネット取引口座

インターネットショッピングの利用者や利用額は、ますます増えることが予想されています。代金の決済方法として、クレジットカードのほか、インターネットバンキングによる銀行口座からの決済を利用できるショッピングサイトが増えています。

また、電子マネーの利用も伸びています。インターネットバンキングによる電子マネーへのチャージサービスが本格的に普及するのは、まだこれからですが、バーチャルなお金である電子マネーは、インターネットというバーチャルな空間

での銀行取引と相性がいいと思われれます。

インターネットショッピングや電子マネーなど、これからその利用が伸びると考えられるさまざまなサービスに連動することができるようインターネットバンキング。試しに使ってみて慣れておけば、中高年の方々にとつても、役立つことが増えていくのではないのでしょうか。

インターネットバンキングを利用する際に気をつけたいこと

- 利用するパソコン・スマートフォンには必ずセキュリティ対策ソフトを導入し、常に最新の状態にしておく
- 銀行などを偽装したホームページやメールによりパスワードなど個人情報を入力し悪用する「フィッシング詐欺」に注意する
 - 取引する銀行サイトを、お気に入り登録しておく
 - 心当たりのない電子メールは開かない、電子メールのリンクからログインしない
- 取引の際は、安全のためのSSL暗号化通信の証明である鍵アイコンを確認する
- ログインの際に使うパスワードは、類推されやすいものを選び、きちんと管理する